

教科担任制・学校担任制に関するアンケート結果（教員分）

1 教科担任制によって、児童理解が深まったと思いますか。

	6月	10月	2月
大変そう思う	19%	46%	38%
そう思う	62%	46%	54%
あまりそう思わない	19%	8%	8%
思わない	0%	0%	0%
肯定意見	81%	92%	92%

2 教科担任制によって、自分の授業の質が高まったと思いますか。

	6月	10月	2月
大変そう思う	0%	31%	32%
そう思う	64%	46%	46%
あまりそう思わない	36%	23%	22%
思わない	0%	0%	0%
肯定意見	64%	77%	78%

3 教科担任制によって、授業準備の負担が減りましたか

	6月	10月	2月
大変そう思う	0%	15%	15%
そう思う	36%	23%	31%
あまりそう思わない	43%	39%	31%
思わない	21%	23%	23%
肯定意見	36%	48%	46%

4 教科担任制のメリットだと思うことを書いてください

- ・教材研究の時間を削減できる
- ・児童を多数の教員でみることができる
- ・教材を絞ることで、その教科の専門性が高まる。
- ・他の教員との打ち合わせが必要となり、コミュニケーションの機会が増え、同僚性が高まる。
- ・教科担任制を深めて考えると、担任の負担軽減や仕事量（特に担任業務）と授業時間の平準化を考えるきっかけになる。
- ・教科によっては授業準備の負担が減る。
- ・児童理解が深まる。教員相互の理解が深まる。
- ・他学年の児童の様々な面を見ることができる。

- ・児童の指導について、担任一人の責任にせず、複数の教員でチームとして対応にあたることができる。
- ・自分の学級の悩み事を共有でき、一人で抱えなくてよい。
- ・児童にとっての安心感(どの先生も自分のことを気にかけてくれているといった)につながる。

5 メリットを高めるには、運営上、どのような工夫や配慮が必要だと思いますか。

- ・学校全体のルールやきまりを統一すること。(多数)
- ・教科担任制、学校担任制を進めていく上でのスタンダードをはっきりさせる。
- ・どの教員も同じ指導ができるように、学校生活のルールなども再確認する。
- ・指導内容と教室環境の統一化。
- ・学団ごとの普段からのコミュニケーション、細かな連携。
- ・情報共有の時間の確保。
- ・学校担任制の視点から、朝の会や給食指導など、どの教員が行ってもいい状態にしていくことを目指したい。

6 教科担任制のデメリットだと思うことを書いてください。

- ・児童の安否確認の手間がかかる。
- ・不在児童の把握、連絡が難しい。
- ・打ち合わせ回数の増加。
- ・配慮が必要な児童量の増加による負担感。
- ・複雑な授業予定の把握。
- ・教科ごとの教材準備の時間に差があり、仕事量の差が出てしまう。
- ・授業負担が一部に偏ってしまうこと。
- ・時間が重なると、自分の学級の授業の様子が全く見られない。
- ・年度途中での時間割変更が多方面に影響が出る。
- ・結局、準備等の労力は変わらない。
- ・メリットが特に見つからない。

7 デメリットを減らすためには、どのような工夫や配慮が必要だと思いますか。

- ・欠席なのか、保健室にいるのか、すぐに分かる工夫。
- ・学校生活のルールの徹底を図る。
- ・授業予定や児童理解の共有と授業予定の見える化。
- ・教科担任制だからといってその人が授業準備をするのではなく、学団などで手伝える時間をとる。
- ・負担が偏らないように、業務量を分散させるために声を掛け合うこと。
- ・時間割を工夫する。動画などで情報を共有する。
- ・副担任の役割の明確化。

8 今年度実践してきた率直な感想をご記入ください。

- ・幅広いことに挑戦することができた。
- ・新たな取り組みに対して始めは負担感が高かったが、進めていくと指導する教科が絞られる良さや他学年の児童との関わりが楽しく思えるようになった。

- ・職員室の座席が学団ごとになったことにより、若草学級の連携が少しやりづらくなった一方、通常級との連携や交流が積極的に行われるようになったことは学校組織としてよいことだと感じた。
- ・若草学級と通常級で行った交流授業はよかった。しかし、はじめから多くの時間を一緒に取り組むと緊張や大人数に対する環境の変化に対応できない児童もいたため、はじめは交流ではなく、短時間のものを回数多くして取り組んでいくのが良いのではないかと感じた。
- ・学団で話す機会が増え、教員相互の理解が深まり、大変学びの多い時間だった。目の前の子どもをどのように見たのか、どのような教材を開発したいのか、次の授業のねらいを何にするのか、小会議室で時間をとって顔を合わせて話できたのはよかった。
- ・来年度以降も続けていきたい。人員が増えるなら、全教科、教科担任制にしたい。
- ・やっていないので分からない。

年度初めは戸惑いや慣れないことも多くあったが、時間が経つにつれ教科担任制・学校担任制のよさを感じた教員が多くいた。若草学級との交流も自然と増え、学校全体で子どもたちを見ていこうとする意識が高まっていた。情報共有や連携が必要不可欠である分、教員同士の会話が増え、学級の様子や悩み事の相談をしやすい雰囲気が広がっていた。

本校での教科担任制・学校担任制の推進は今年度始まったばかりである。児童・保護者からの肯定的な意見に甘んじることなく、メリットを探究し、児童の「人格形成」という究極的な目標につなげていきたい。教員からは、朝の会や給食指導といった学級担任の仕事をどの教員でもできるようにしたいという意見もあった。学校担任制をスムーズに進めていくには、誰がどのクラスに入っても学級経営できるよう、校内のルールを明確化・再確認し、共通理解していくことがより必要となってくる。欠席児童や不在児童の把握や安否確認についても、授業間でもスムーズに引き継ぎができるシステムを作り、次年度につなげたい。